



道中だより

第 368 号

令和元年11月1日発行

- ・巻頭言
- ・第61回北海道中学校長会
研究大会空知・岩見沢大会
- ・論文・文芸
- ・特別寄稿・さりながら
- ・前期情報・事務局日誌



題名「アンサンブル前」 小樽市立朝里中学校 森 万喜子



感動のある学校

北海道中学校長会 副会長 志 道 仁

「ドングリがこんなにたくさんありました。校長先生も貰ってください。」本校の生徒玄関横には、ミズナラの木が小さな森をつくっており、生徒の憩いの場となっている。その、通称「ぶなの森」は、季節の移ろいを大いに我々に語りかけてくる。今の季節は、葉っぱが黄色に色づくとともに、たくさんのドングリが視線を引きつけ、冬への準備を催促してくる。

さて、ドングリを手にしたその生徒は、動いた心の声を誰かに伝えたかったのだ。幼少期の風景が記憶の底から甦り、心を揺さぶった感覚を伝えたくなったのだ。多くの言葉はいらなかった。校長の手には、ドングリが自慢げに鎮座していた。

学校は、子供たちや教職員、そして地域や保護者とともに感動を生産し、共有し、それが次の感動へのエネルギーに変換される場所である、と校長に採用されたときに考えていた。その考えが変わることはなかったはずであるが、時々、感動の風景を臉の裏の方に押し込めてしまうのは、なぜだろう。

「へえー、そうか」と授業中につぶやく声。「シーン」しか聞こえない全校集会。「きれいな声」には遠いが、大きな声の合唱。「ドングリだ」とはしゃぐ声。

学校のあちらこちらには、感動がちりばめられている。その風景を上手に切り取り、還元し、エネルギーに変えていくのが「校長の仕事」と思っていた、いや、思っているのに、その風景がなんとなく臉の裏に押し込められている気がする。決して記憶から葬り去ったわけではない。忘れてはいないが、優先順位が勝手に入れ替わってしまった、ということなのかもしれない。

昨今の教育を取り巻く社会は、あまりにも目まぐるしい変動の時代を迎えている。学校における働き方改革や新学習指導要領の確実な実施、情報教育の推進など、学校経営に位置付け達成すべきものが多岐にわたっている。我々は、このことに正対し、真摯に立ち向かい、解決または確実に実行していく責任があることは重々承知している。ただ、その学校経営に感動は生まれているのだろうか、という自問自答だけは忘れてはならない。

畏敬の念を無意識に抱いた瞬間だったのかもしれない。瞳を輝かせ、手からこぼれるだけのドングリを持ってきた、その生徒の姿は自分の学校経営への想いを臉の裏から、記憶の底から、眼前に引き出してくれた。



第61回研究大会挨拶

空知・岩見沢大会実行委員長 太田 智子



皆様、おはようございます。

本研究大会の実行委員長を務めさせていただいております、空知校長会の太田でございます。1年前の9月、胆振東部地震により、様々な対応が続く中で、大会運営も危ぶまれた中、このようなときだからこそ、集まろう、「チーム道中」として、困難に立ち向かい、情報共有しようという熱い思いで集まった十勝・帯広大会を思い出しております。

その大会の成果を引き継ぎ、この空知・岩見沢大会を迎えるわけでございますが、このように期待数を大きく超える会員の皆様の御参加をいただき、本当に嬉しく思っています。新沼会長のお言葉にありますように、子供たちの未来につながる大会となるよう、覚悟を持って、実行委員全員の総力をあげて、大会運営にあたりたいと決意しております。

また、開会式には、公務御多用の中、北海道教育庁教育指導監 鈴木淳様、空知教育局 局長 竹林亨様、岩見沢市長 松野哲様、空知管内市町教育委員会教育長会会長、岩見沢市教育委員会教育長 三角光二様、全日本中学校長会会長 川越豊彦様をはじめ、本当に多くの御来賓の皆様の御臨席を賜りました。衷心よりお礼申し上げます。

さて、本研究大会は、第61回を迎えますが、令和元年度としての初の大会となります。そして「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を基本主題としての4カ年継続研究のまとめにあたる大会です。

今日、わが国は人口減等の深刻な課題を抱える一方で、AIやIoTの急速な進展により、将来を予測することが困難な不透明な時代に直面しています。中学校現場においても、いじめ問題、学校不適応、また特別な支援を要する生徒の対応など、課題は多岐に亘り、同時に学習指導要領の円滑な実施に向け

ての取組と働き方改革への対応は待ったなしという状況です。我々校長の益々のリーダーシップの発揮と、教育の意義と価値を見極めるときだと思います。

Society5.0を見据えた取組をと、声高に言われますが、「自分の足で立ち、自分の頭で考える」力を育てているのが学校であり、曖昧で、且つデータがない問題を読み解く力は、我が国の学校教育がこれまで、大事にしてきたことと言えます。

子供たち一人一人が未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育の充実とより良い社会を創るという目標を学校と社会が共有していけるよう、私たち校長は「子供たちの未来に責任をもつ」という覚悟のもと、学校経営に積極果敢に挑んでいかなければなりません。

本大会は、北海道中学校長会会員の皆様の英知を結集して、質の高い学校経営の実現に向けて成果をあげるための大会です。全体会における確かな情報の確保や、5つの分科会における各主題や視点に沿った活発な研究の深化が、明確なビジョンの形成と様々な教育課題の解決に結びつくものと確信しております。

これまで、空知・岩見沢大会に向けて私たち実行委員会は、小学校長とも連携し「質の高い学校経営を実現できる研究大会」を目指し、心を込めて準備にあたってきました。空知ならではの工夫として、第5分科会での、他校種連携に関わる協議に、空知の小学校長が参加させていただきます。また、全道の中学校長がお集まりですので、全道一区の職業科をもつ高校の紹介ブースも設置しております。

緑と心豊かで彩り鮮やかな空知・岩見沢大会、運営上の不備や行き届かない面が多々あることと存じますが、皆様の御理解と熱意で支えていただけると幸いです。

結びになりますが、本研究大会の開催にあたり、多大なる御指導と御理解を賜りました北海道教育委員会、岩見沢市、空知管内市町教育委員会教育長会、その他関係機関の皆様にご心から感謝申し上げ、開会の挨拶とします。

2日間、どうぞよろしくお願いいたします。

提言の概要

第1分科会

司会を終えて

創意工夫を生かした 特色ある教育課程の編成・実施

松前町立松前中学校 蛸 子 友 正

1 はじめに

渡島小中学校長会では、「社会に開かれた教育課程」の編成に向け、組織的な研究を通して校長としての職能向上を目指しながら、学校経営の充実を究明している。

2 研究内容



視点1の「創意工夫を生かした新しい教育システムの有効活用」に関しては、特色ある取組事例として、「幼小中12年間の連続した教育課程の編成・実施」、「小中一貫教育とコミュニティ・スクールの導入」を紹介した。

視点2の「主体的に学習に取り組み、個性を生かす問題解決型授業の推進と充実」に関しては、特色ある取組事例として、「重点教育目標の改定と授業改善」、「小規模校の強みを活かした授業改善」を紹介した。

3 研究の成果と課題

- 校種間連携において他校種の文化も取り入れながら柔軟に対応することの重要性を再確認できた。
- 実践事例を通して新しい教育システムを取り入れる方法論を明らかにすることができた。
- どのような時代にも必要とされる事柄と時代が要求する新しい視点を踏まえ、地に足の着いた実践を積み重ねることの重要性を再確認できた。
- コミュニティ・スクールの実効性を高めるためには、地域コミュニティと学校運営協議会の融合や折衷が必要である。
- 校種間連携を進めるためには、学校文化や各学校園の職員の温度差を解消する取組が必要である。また、学校間の交流の場や時間の確保に向けた校内体制を整備するため、柔軟な発想が必要である。

〈研究の視点〉

新しい教育システムを有効活用した教育課程の編成・実施
①創意工夫を生かした新しい教育システムの有効活用

②主体的に学習に取り組み、個性を生かす問題解決型授業の推進と充実

鹿部町立鹿部中学校 岩 井 祐 巳
長万部町立長万部中学校 渡 邊 直 樹

渡島小中学校長会の取組を基調提言として、各地区・学校の実情を踏まえた実践交流が行われ、自校の課題解決につながる取組について熱心な協議が行われた。

柱1については、コミュニティ・スクールの実施に係る学校運営協議会の在り方やその進捗状況、効果的な学校種間連携と一貫した教育課程の編成・実施等について協議が行われた。

柱2については、問題解決型授業の充実を図る研修や教員の資質・能力の向上を図る研修の在り方、児童生徒に求められる力を育成するためのICTの活用等について協議が行われた。

北海道教育庁教育指導監 鈴木 淳 氏からの助言では、地域の実情を踏まえた新しい教育システムの必要性と進めていく手順について議論が必要であり、それを継続していくための仕掛けをしていくことが求められる。コミュニティ・スクールの必要性について教職員のみならず、保護者や地域住民に理解を図るため校長の戦略が重要になってくる。また、各地域における子供の学びの連続性について考えどのように教育課程に反映させていくのか、これから求められる学びを見極めていく必要がある。校長として学習指導要領「総則」をどのように読み込み、それを教職員、保護者、地域住民にわかりやすく伝えるためどのような言葉に変換していくか。地域・子供の実態を踏まえ、どのような教育システムを構築していくか校長としてのビジョンが求められる。さらに、働き方改革にかかわり、これからの学校教育においてスクラップ・アンド・ビルドの原則に立ち、どのようにスクラップしていくかの見立てが重要になってくる。そして、これらを実現するための校長のリーダーシップに大いに期待するとの激励の言葉をいただき、分科会を終了した。



提言の概要

第2分科会

司会を終えて

確かな学力の定着を図る指導と評価

千歳市立北斗中学校 佐 藤 誠

1 はじめに

石狩管内小中学校長会では、研究主題を「自立・協働し、未来を創る石狩の子どもを育成する学校教育の推進」と設定し、組織的な研究を進めている。本提言では、校長として果たすべき役割や指導性について、学校教育目標の実現に向けて方向を示し、学校経営をどう展開していくか実践を通じて考える。

2 研究内容

石狩の実践では、月別学校経営プログラムを示し職員会議で評価、短いスパンでのPDCAを繰り返す取組。研究部から「授業の基本型」を提示させる実践。小中連携による児童生徒育成MATRIXを作成した実践等を紹介した。また学力面に特化した学校改善プランの見直し、校内研修の充実、授業改善、習熟度別少人数指導の充実、学習支援員の活用、学習サポート、千歳チャレンジ、eラーニングの活用、小中連携組織の設置、小中連携・一貫教育推進計画実践ノートに基づく取組、地域人材の活用、学校運営協議会設置に向けた取組等、自校での実践を報告した。



3 研究の成果と課題

- 学力面に焦点化した学校改善プランの見直しにより端的に理解しやすくなり、また教務主任の進行管理意識の高まりがみられた。
- 学習支援員の配置に伴う指導体制・指導計画の見直しが図られた。
- 学習サポート活用により指導体制が構築、千歳チャレンジは新学年に向けての意識付けとなった。
- 連携組織に関わり、小中統一して校務分掌担当者を配置、組織的な活動の土台が整備された。
- 千歳チャレンジ問題、学習サポート活用に関わり、効果の検証と教員の意識の再構築が必要である。
- コミュニティ・スクールに関わり、活動の在り方の検討、校内での理解や体制づくりを進めていく。

〈研究の視点〉

地域に根ざした特色ある教育活動の推進

①地域に根ざした教育力を活用した学習習慣の確立と充実

②小学校と中学校との連携教育を目指した学力向上

千歳市立青葉中学校 小笠原 輝 幸

千歳市立東千歳中学校 村 上 俊 司

第2分科会では、石狩の提言を受け、研究の視点①②を柱として7グループにわかれ討議を行った。各地区・各校の実態のもと、実践交流を中心に行われた。今後の学校経営に向け有意義なものとなった。

視点①について、自学自習のため放課後図書室を開放し外部人材を活用していく構想、定期テストに合わせ小学校で家庭学習強化週間を設ける実践、町が塾を運営し退職された先生を活用する実践が発表された。また、地元採用の危機感から学校に関わりたいたいという企業もあり、その活用も有効であるとの意見、地域による違いがあり、実情に応じそれぞれの地域で考えていくことが大切との考えが示された。

視点②について、小学校で定期テストを実施する取組、小中一貫校の6年生が週一回中学校に登校する実践が紹介された。また、小中の先生方の意識をそろえる、ミドルリーダーを動かしながらつながりをつくっていく、中学校が求めている具体的な内容を明確に示すことで意識が変わり、先生方自身で進めていく可能性が高まるとの意見、9年間でどんな子供に育てたいかという視点で校長がリーダーシップを発揮、連携のメリットを先生方に示し意識改革を図ることが校長の仕事であるとの考えが示された。

助言者の北海道立教育研究所企画・研修部長 石原 学 氏から視点①に関わり、地域は校長を求めており、意見交換を進め、地域に根ざしたものは何があるかを見つけてほしい。視点②に関わり、校長が取り組みやすいことに課題を設定することが小中連携を進める重要なキーである。校長の権限でできる範囲で解決が可能な課題設定が大きなキーワードになっていくとの御助言をいただいた。最後に、家庭学習と置き勉プロジェクトをセットで行った実践、下校前に一日の授業を振り返り、家庭学習の計画を立てる「長善タイム」の取組を紹介いただき分科会を終了した。



提言の概要

第3分科会

司会を終えて

豊かな心と健やかな 身体を育む教育の充実

標津町立標津中学校 小 崎 伸 人

1 はじめに

根室管内小中学校校長会では、豊かな心と健やかな身体を育む教育の充実に向けて、各校の経営方針に基づいた実践事例をもち寄り、今日の教育課題等を解決するための方策及び校長としての役割と指導性について組織的に協議・研究を進めている。



2 研究内容

視点①の「情報を正しく取捨選択し、情報モラルを大切にする情報教育の推進」に関しては、教育局や管内PTA連合会（各家庭）と連携した取組「スイッチオフ22」について、実践や実態を紹介した。

視点②の「主体的に学習に取り組み、個性を生かす問題解決型授業の推進と充実」に関しては、特色ある取組事例として、「2校の実践事例」及び「1つの自治体の取組」を紹介した。

3 研究の成果と課題

- スイッチオフ22について教育局と協力し、地区PTA連合会と連携した取組の周知が徹底されつつある。
- 各校の継続的取組の結果、生徒のメディア使用に対する抑止意識が向上したほか、SNS等のネットトラブルの報告件数が減少した。
- PTA組織を完全に巻き込み、家庭への指導補助としての取組方策が必要である。
- 生活習慣を変えることが全てにおいて生徒自身にプラスに働くことを理解させ、本人の決意や実行につなげていく手だてを他の職員や関係機関と検討していく必要がある。

〈研究の視点〉

「生徒が利用するインターネット機器を巡る問題への取組と情報教育」

- ①情報を正しく取捨選択し、情報モラルを大切にする情報教育の推進
- ②主体的に生きていくための価値観や道徳的实践力の充実

根室市立落石中学校 南 靖 志
中標津町立広陵中学校 飯 田 輝 雄

第3分科会では、根室管内小中学校校長会の取組を基調提言として「研究の視点①と②」を討議の柱に据え、6グループで協議を行った。

協議では、各地区・学校の実情に応じた具体的な実践交流が行われ、自校の課題解決につながる取組が話し合われ、質問、発表も参加者の協力ですムーズに行われた。

視点①については、小学校から情報モラル学習を実践するなど小中（中高）連携の必要性や外部人材の登用など地域を巻き込む方策の必要性について交流することができた。

視点②については、情報教育とは技術指導とともに情報に対する取捨選択を行わせる等、自己管理指導（タイムマネジメント）であることや、技術指導と並行して新聞や本を用いる等、従来の心を育てる教育の必要性について交流することができた。

助言者の石狩教育局義務教育指導監 前川 豊志氏からは、近年のネットトラブルに係るデータから見える学校の果たす役割や新学習指導要領に記された情報教育の解説や小学校や地域と連携し、より大きな組織として子供たちを育むようご助言いただいた。最後に、これらを実現するため、校長のリーダーシップに大いに期待するとの激励の言葉をいただき、分科会を終了した。



提言の概要

第4分科会

司会を終えて

自らの生き方と 社会性を育む教育の充実

留萌市立港南中学校 大 井 学

1 はじめに

留萌管内小中学校長会では、平成28年から、子供たちに社会で生きる力を身に付けることのできる学校経営を目指し、新学習指導要領の核となるカリキュラム・マネジメントに焦点を当て、校長の在り方の研究に取り組んできた。



2 研究内容

(視点1) 教職員の意識改革

1 意識改革への取組

(1) 経営方針の共通理解

＊グランドデザインや中期・短期目標の提示など

(2) より良い授業への意欲の向上

＊教師力の向上など

(3) 教材研究の時間確保

＊時間外勤務の縮減など

(視点2) 組織力の向上

1 組織体制の整備

(1) ミドルリーダーを中心とした体制づくり

＊分掌を活かした体制づくりなど

(2) 研究係を中心とした授業改善

＊学び合う授業に向けた取組など

(3) 生徒指導主事を中心とした指導体制の確立

＊指導事項の共通理解と共通行動など

(4) 教務主任を中心とした教育計画づくり

＊適切な時数の確保など

3 研究の成果と課題

○カリキュラム・マネジメントの全体構造図の作成及び実践交流を通して、各学校の課題やその改善方策等を共有することができ、学校経営の在り方について考える良い機会となった。

●カリキュラム・マネジメントの全体構造図は、教育課程の全てを網羅するため、各学校の課題等を踏まえ、記載の項目について工夫が必要である。

〈研究の視点〉

教職員の意識改革と協力して学校運営に参画する校内体制の充実

①学校の意思決定と校長のリーダーシップの在り方

②授業改善に向けた教職員の校内研修の充実

小平町立小平中学校 池田和人

遠別町立遠別中学校 田中幸治

第4分科会では、留萌管内小中学校校長会の取組について提言発表があり、その後、討議の柱に沿って、各地区・各学校の取組について実践交流や自校の課題解決につながるグループ協議が行われた。

助言者の胆振教育局義務教育指導監 渋川 賢一氏からは、提言及び協議の柱それぞれに対して、次のような助言をいただいた。

【提言について】「教師個々の力量の向上・働き方改革・チーム学校を意識した組織力の向上」などについて、カリキュラム・マネジメントに係る全体構造図という共通のフレームを用いることで、各校長が同じ立ち位置から情報交換や協議を進めることが可能である。互いのマネジメント力を高め合う有効な手段として機能している。

【柱1について】様々な判断をするとき、法令等の遵守とともに「子供のためになっているか」というよりどころをもつことで軸ぶれすることがない。さらに、教職員に受け入れられ、組織として適切に行動化されるために、教職員が望むリーダーとしての要素が日々の経営の中に現れることが大切である。

【柱2について】経験年数の均衡の崩れや教育研究団体の減少などという状況を踏まえると、校内研修の役割は益々重要になっている。校内研修の充実を考える際に注目したいのが学校のグランドデザインや全体構造図である。是非ともこれを教員も交えて作成してもらいたい。作成に関わることで、教科や学年・学級・分掌のつながりを意識し、自分事として捉え、研修にも主体的に関わることができる。学習指導要領の改訂は教員の腕の見せ所である。「教員は授業で勝負する」と言うのであれば、学校での教え方・学び方を設計し、工夫する必要がある。教員は授業が上手になりたいと思っている。その気持ちにどのように火を点けるかがポイントである。



提言の概要

第5分科会

司会を終えて

時代の要請に応える 学校経営の充実

帯広市立川西中学校 黒田 正 則

1 はじめに

帯広市では、地域の実情や子供たちの学びや育ちの現状と課題を把握し、効果的な家庭や地域、他校種との連携を図ってきている。

帯広市中学校長会ではこうした連携の在り方を明確にし、コミュニティ・スクール（以下CS）や小中一貫教育など新しい時代の学校づくりに向けた取組の展開に向け、校長のあるべき姿を探求する組織的な研究を進めている。



2 研究内容

中学校区における家庭や地域との連携・協働による取組や、他校種間連携で学びと育ちをつなげる「エリア・ファミリー」の取組の成果と課題の明確化、組織的・計画的な取組実践による帯広市における特色ある小中一貫教育を進める基盤づくりに向け、次の4点について実態調査と研究を進めた。

- (1) 学校支援ボランティア組織との連携と実態
- (2) エリア・ファミリーの推進状況
- (3) 保護者地域の学校教育参画
- (4) 小中一貫教育とCSの理解促進

3 研究の成果と課題

- エリア・ファミリーを基盤とした幼保小中間の連携と、段階的な交流により一貫教育へつなげるビジョンの必要性和構築が進められた。
- エリア内での「目指す子供像」を明確にし、その実現に向けて小中学校が義務教育9年間を見通した連続性、系統性のある教育活動をつなげる共通イメージの確認と共有が進められた。
- 学校やエリア内での地域環境等の違いによる取組状況の差異や課題の解消に向けて、学校内の組織体制の構築や教職員の役割分担、経営参画意識の高揚による協働文化の構築を進めるリーダーシップを発揮していく必要がある。

〈研究の視点〉

家庭や地域、他校種との相互連携と学校経営

①家庭や地域との連携、コミュニティ・スクール等を活用した教育の充実

②小中一貫教育や校種間連携を活用した教育の充実

帯広市立大空中学校 黒島 俊一

帯広市立緑園中学校 海鋒 達也

第5分科会では、帯広市中学校長会の取組を基調提言として、提言内容の交流と質疑ののち、研究の視点①②を討議の柱に据え、8グループで協議を行った。

質疑ではコーディネーターやボランティアの役割、エリアの取組からCSの取組の移行、小中一貫教育に向けた連携の具体、校区がまたがる取組の重なり等の対応など、実践レベルに高い関心が寄せられた。

また、協議では、校長に必要な資質、目指す子供像の共有の理解、長続きさせていく仕組みの必要性、方法論に終始しないで、何のためにやるのか目標を見据えて行うことの大切さ、小中連携から一貫教育へ向けて、乗り入れをやってよかったという実感が持てることの重視、行政との連携、中学校が小学校に勉強を教えに行く取組とその効果なども紹介された。

助言者の、空知教育局義務教育指導監 泉山 浩幸氏からは、提言内容について、学校教育のミッションをふまえた学校経営方針のビジョンを明確にし、新学習指導要領の身につけたい3つの資質能力の達成を目的に、方法論としてのCSの取組を充実させていくことの大切さについて助言を受けた。

グループ協議内容については、校長のリーダーシップとは、一人一人の職員が目指すべき目標を共有し、どのようにかわらせていくかが大切であると指摘。その上で、自校の「弱いところ」をどのように発信していくかで、地域保護者からの信頼獲得へとつながっていくこと。また、専門性の高い学校支援の取組や地域学校協働本部へと発展・展開する仕組みづくりの必要性について、助言を受けた。さらに、ふるさとを大切に、社会に通用し、世界に出て行く子供たちを育むため、今後は小学校での教科担任制等の導入も拡充させつつ、校長には学校改善に向けた「夢とビジョン」をもちながら、リーダーシップを発揮することへの期待の言葉をいただき、分科会は終了した。



〈論 文〉

確かな学力の定着を目指して

～授業改善・基本的な生活習慣の改善・家庭学習の充実の取組～

標津町立川北中学校 岩 崎 摂 也

1 はじめに

本校は標津町の内陸部に位置し、南へ約4キロメートルには標津川が流れ、北には武佐岳をはじめ知床の山々が連なる豊かな自然環境に恵まれた、生徒数52人の学校である。川北の地域は古くから子供たちの教育への関心が高く、学校の教育活動に対して家庭や地域が大変協力的である。生徒たちは素直で明るく、授業や部活動にも意欲的に取り組んでいる。反面、確かな学力の定着には課題があり、課題解決に向け何が必要か、職員のベクトルを同一のものにするためにも昨年度の冬期休業中に校内研修でSWOT分析を行った。職員の中から改善に向け洗い出された取組が授業改善、基本的な生活習慣の改善、家庭学習の充実である。ここではその取組の一端を紹介したい。

2 確かな学力の定着に向けた取組

(1) 授業改善の取組

標津町の全校で取り組んでいる標津型学習スタイル（課題解決型学習、子供主体型授業、ノート指導の徹底、学習規律の定着、望ましい生活習慣の定着）の徹底に向け、「主体的に学び、思いや考えを認め合える生徒の育成～生徒同士が思いや考えを共有できる授業を目指して～」を本校の研究主題として設定し、ワークショップ型の校内研修、若手教員へのメンター研修等を行う中で教師主体型の授業からの脱却に向けて取り組んでいる。また、年度当初に全職員で意識して取り組んでいるのが授業力向上の4つのチェックポイントである。日々の授業で全職員が意識するとともに授業研究の際にはこの4点を柱として授業の検証・協議を行っている。

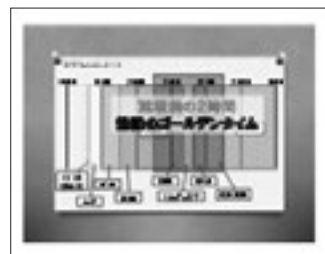
〈授業力向上の4つのチェックポイント〉

- ・生徒が終末まで意欲を持てる課題が明示されているか
- ・生徒同士が自分の思いや考えを共有する時間が確保されているか
- ・思考・表現・振り返りをする時間が確保されているか
- ・後から見て授業の流れが分かる板書になっているか

(2) 基本的な生活習慣の改善の取組

SNSやインターネットを通したゲームに費やす時間の長さ、また自己規制することなく深夜までやり続ける生徒も一部にはおり、学力を下支えするための生活習慣の改善は喫緊の課題となっている。スイッチオフ22の定着を図るために生徒一人一人の取組を毎日集計し、啓発に取り組んでいる。

また、スイッチオフ22の取組がなぜ大切なのか、その意義を浸透させるために集会の中で生徒指導部から図のような資料を使って生徒にプレゼンテーションを行い、啓発の効果を高める工夫をしている。



(3) 家庭学習の充実の取組

各学級で家庭学習時間の集計を行い、「見える化」することで頑張りを讃えるとともに、学級全体での家庭学習への意識の高揚を図っている。また生徒一人一人がしっかりと目標や自覚を持って学習に取り組むために、定期考査の前にはテスト計画を立て、終了後はその振り返りを行っている。

3 おわりに

ソサエティ5.0といわれる先行きの見えない、変化の激しい時代を生きる生徒たちにとって「自分の頭で考え、伝え合い、仲間とともに解決に向かう力」は大切なパスポートともいえるべきものである。確かな学力の定着を目指した3つの取組は途上にあり、劇的な成果としてあらわれてはいないが、教員、生徒の意識が少しずつ変わってきていることを感じている。今後も不断の努力を継続したい。

文 芸

そんなに悪者扱いしなくても・・・

日高町立門別中学校 畠 山 学

9年前の4月、彼女たち5人は、私が顧問をする女子バスケット部に「全道優勝、全国出場」という明確な目標を持ち入部してきた。小学校時代のミニバスでは、当時日本中を席卷した新型インフルエンザの流行による学校閉鎖のため、全道大会をかけた試合へ出場できず、彼女たちの夢は戦わずして散った。その夢の続きを中学校で叶えるために、彼女たちと私の挑戦の日々が始まった。そして2年と4ヶ月、管内大会決勝敗退で、またしても夢の実現はできず、5人の中学校でのバスケットは幕を下ろした。

「どんなに頑張っても必ず結果に結びつくとは限らない、でも仲間とともに流した汗や涙は何物にも代えられない財産だ、夢をあきらめるな。」と最後のミーティングで話した。それから7年後のある日、Kからの電話、「車いすバスケットのU-25日本代表に選ばれて、イギリスで行われる世界大会に参加することになりました。」「何？日本代表？世界大会？」突然のことに、頭の中はしばらく「？」だらけだった。ネット配信の生中継、準々決勝のドイツ戦、「なんでそれ外すかなあ」「ワンフェイクだろ！」PCの画面に叫び涙する私がいた。Kは中2の冬に足首の故障が長引き、いくつ

か病院を回り最後に出された診断は予想もしない「骨肉腫」だった。選択肢はあったが、本人の意思で足首から下の切断を選んだ。一時退院で応援に来たKの分もと戦った最後の中体連も、結果を出すことはできなかった。

その後、5人のうち3人は、高校や大学で全国出場の夢を自ら叶えた。一番私に怒鳴られていたKはなんと全国を飛び越えて世界へ、さらに、その夢の続きには、2020東京パラリンピックがあるとのこと。あきらめないことの大切さをこの歳になって、改めて教え子に教わった。先日、また新たな情報が舞い込んだ。大学での部活を途中で断念し、夢を実現していない最後の一人Rが、指導者になって全国を目指すため教員採用試験を受けたとのこと。彼女たちの夢にはまだまだ続きがあるようだ。

今、部活動に対する風当たりは強く、行く先も不透明である。外部委託、指導者の体罰、勝利至上主義、働き方改革におけるブラックの根源等々。でも、とても多感な時期に仲間とともに汗を流し、一つの夢を必死に追いかける、その手伝いのできる、そんな仕事って、そうそうないと思うんだけどなあ・・・。

文 芸

「忖度」と「リスペクト」

帯広市立緑園中学校 海 鋒 達 也

先日、札幌に出張しススキノの某ホテルに宿泊した。ネオンが恋しくて予約したのではない。某チェーンホテルの支配人に知り合いがいたので、無理くり都合をつけていただいたのがススキノだった。(誠にありがたい) スポーツ関連、芸能人コンサートや外国人客の影響で、最近は平日でも予約を入れることが至難の業と化しているのは、何とかならないものだろうか。

さて、そのホテルでチェックアウトしようと宿泊階からエレベーターに乗ったときのことである。10人定員の室内には半分以上の人(しかも外国人)が乗っていたので、私も中間ほどの所に乗り込んだ。

押しボタン近くには、左手でキャリーバッグを持っていた中国系の男性がいたので、私は(いや同乗していた大半の人もそう思ったであろう)その男性が当然ながら、最後まで「開く」のボタンを押し続けて最後に出ると踏んでいた。が、その期待は大きく崩れ去り、ドアが開いた瞬間にその男性は、申し訳ないというそぶりも見せずに、そそくさと出て行きフロントに向かった。その後、ドアは閉まろうとしたので、私は「開く」のボタンを押し

続け、全員が出た後に出た。

再度、忘れ物に気づき、10階の部屋に行き、もう一度エレベーターに乗り込んだ。そこには、20歳代の欧米人男性が乗っていた。途中階で3、4人の客が乗り込んできた。1階に着いたとき、さて今度はどういう展開になるのか、最後部にいた私は様子を窺っていた。結果、私は「どうぞ」とその外国人男性に促され、「ありがとうございます。」といって先に出た。実に清々しい気持ちになった。

昨今、「忖度」とか「リスペクト」という言葉があちらこちらで使われている。ラグビーワールドカップでは、国や地域を越えてその精神が、ラグビーに宿っていることが話題になった。あの中国系男性は、「すみません。急いでいます。」と言えないまでも、申し訳ないという気持ち(仕草)で出ていったなら、と思った。私は、全校集会で生徒たちに、「忖度し相手をリスペクトできる人間が、社会で必要とされ、周囲から評価されている。」という話をした。

いや、意外と子供たちの方ができていて、学び直さなければならないのは大人の方かもしれない。

(特別寄稿)

ボールパークのまちから

北広島市教育委員会

教育部理事 津 谷 昌 樹

「世界がまだ見ぬボールパークをつくろう」

2018年3月、北広島市は、北海道日本ハムファイターズのボールパーク建設地に内定し、同年10月には新球場の建設が決定しました。

大都市札幌市に隣接し、新千歳空港までは電車で約20分、交通アクセスの利便性と広大な用地を有していることもあり、人口6万人弱の小さな都市でありながらプロ野球チームの本拠地となります。当然、このような例はこれまでになく、今後のボールパーク構想の実現と本市の取組には各所から大きな注目が集まっています。

2023年に開場予定の新球場や周辺施設の建設・整備等、壮大な計画によるビッグプロジェクトは、今後のまちづくりやまちの活性化の核となることに間違いありません。

また、本市とファイターズはパートナー協定を締結し、様々な連携事業に取り組んでいます。教育の分野においても、体育やキャリア教育の授業にファイターズの元選手等を講師として招くなど連携を深めています。

本市には8つの小学校と6つの中学校、小中1校ずつの分校があり、昨年度から全市一斉に小中一貫教育を導入しました。6つの中学校区は、1小1中が4地区、2小1中が2地区、いずれも施設分離型ですが、各地区の特色や実態を踏まえ、これまでの連携教育の実践や地域との関係性を基盤として、義務教育9年間で目指す子どもの姿と、その実現のための教育課程を共有し、小中の系統性・連続性をより重視した一貫教育を進めています。

来年度は、西の里中学校区における石狩管内学校課題研究発表会、再来年度には、小中一貫教育全国サミットを本市で開催することが決定しています。全道・全国に向けて、本市の小中一貫教育を広く発信するための貴重な機会として、現在、実践の積み重ねと、運営に係る準備を進めているところです。

本市の小中一貫教育は始まったばかりです。まだまだ道半ばの取組ですが、こうした研究大会等を通じて、理論と実践をより確かなものとし、子どもたちに確かな生きる力を育む小中一貫教育が本市に根付いていくことを目指しています。

未来に向かうまちづくりと人づくりの夢が大きく広がる北広島市です。

『子ども達の応援団長』～可能性を信じて

津別町教育委員会

教育専門員 原 田 隆 康

高校の校長から児童館に席を異動して数か月が経ちました。その間、元号が令和に変わり、世間には新しい時代に対する期待感が溢れており、私自身も新たな発見の連続にワクワクして毎日を過ごしております。

校長に採用されたときに、子ども達の成長そして直接の担い手である先生方の応援団になろうと思い、取り組んできました。高校には当然のことながら、実に様々な生徒が入学してきます。学力はピンからキリまで幅広く、生活の基盤である家庭環境や経済事情が複雑なことも珍しくありません。そんな子ども達に対して、常に心がけていたことがあります。それは『自分の経験則から、決め付けない』『発展途上の人間として見る』ということです。教員時代の自分は、どうせこの程度だろうとか、この子はこういう子だからなどと可能性を限定的に見がちでした。しかし、子ども達は、伸び幅やペースが一人一人違って必ず伸びます。特に、やる気スイッチが入ったときはとてつもなく進化しました。

高校陸上部顧問の経験から、身長170センチメートルでも走高跳2メートルを跳び、身長が低くぶよぶよの身体でも100メートルを10秒台で走るなど、中学まで無名の生徒でも全道大会で上位入賞した生徒を多数目の当たりになりました。いずれも入学時には全然期待していなかった生徒たちでした。つくづく子ども達は無限の可能性を秘めていると思い直しました。今いる児童館でも、常にホールは交通渋滞状態でありながら、次々と新たな遊び方が湧いてきて実に創造的な空間です。そのため、日々子ども達の成長がわかります。

学年ビリから慶応大学に入学を果たした「ビリギャル」こと小林さやかさんは、自著の中で「ワクワクすることがあるとがんばれた。」と記しています。児童館においても、今日来て良かった。こんなことができるようになった。友達とこんな楽しいことがあった。と何かワクワクするようなよりどころになってくれたらうれしい。そして、ぐんぐん成長していく子ども達を後押ししてくれる指導員方の背中を押してあげられる存在でいたいと考えているところです。



「世界はどのように変化していると思いますか」という問いに、日本は「どんどん悪くなっている」と回答する割合が50%を越えているそうだ。

未来は、グローバル化や人工知能(AI)などの技術革新が急速に進み、予測不可能な時代となる。さらに、人生は100年時代。こんな言葉が、私たち教育にたずさわる者の耳に日常的に入ってくる。そして、様々な場面で子供たちにも伝達されていく。子供たちは、未来をどのようにとらえているのか。

先日、将来教師になる夢をもっている本校の3年生と「未来」について語り合ってみた。やはり、未来に対しては漠然と「期待」より「不安」が強い。『人間らしさや自然が失われていくと地球が暗い星になってしまう。情報やスキルを伝達するだけの指導ならAIでも可能だが、学校の良さは人間が人間を育てることだと思います』と語ってくれた。

私たち教師は、子供たちに「予測不可能な時代」のイメージを肯定的に捉えさせる努力を払いたい。

世界100万部超のベストセラー「ファクトフルネス」を手にとってみた。例えば「世界中の一歳児の

地球を暗い星にはさせない

七飯町立七飯中学校 佐々木 理 之

中で、なんらかの病気に対して予防接種を受けている子供はどのくらいいるでしょう」との3択の問いに対する日本の正答率6%。「いくら何でも電気が使える人は、世界にどのくらいいるでしょう」の正答率は15%。いずれも問いの正解は80%である。

世の中の悪いニュースは、インターネットやTVを一色に染める。そして、良い出来事はニュースになりにくい。悪いニュースが増えても、悪い出来事が増えたとは限らないという事実をしっかりと教えてあげなければならない。

私たちは教育者である。今後、我が国を支えていく子供たちには、「私たちの未来は、人間が知恵を出し合えば素晴らしい時代になる」という期待感を抱かせる教育を全力で展開していきたい。

明治以降150年間、脈々と受け継がれてきた我が国の学校教育現場で、30年以上戦ってきたというちっぽけな自負がある。「より良い日本人の育成」と「若者が憧れる職場づくり」との両立をめざして、現場にこだわって仕事を進める。

校長室から青空と豊かな木々を眺めながら、「決して、地球を暗い星にはさせないよ」と誓う。



矢継ぎ早に働き方改革の情報が耳に入ってくる。有効な対策は現状認識をしっかりとすることからしか生まれないと思い、今年度から在校時間を記録しているが、6割以上の教職員が過労死ラインを越えてしまっていた。教職員の労務管理を行う意識が低く管理職としては失格である。そこで、遅ればせながら、部活動休養日や学校閉庁日、定時退勤日の設定、業務の負担軽減等、道教委や町教委の働き方改革アクションプランを推進すべく働き掛けを行っているところである。

さりながら、教職員にいまひとつ響かない。それは何故なのだろうか。このモヤモヤ感を抱いていると、「学校の長時間労働が改善しない6つの言葉(理由)」という解決の糸口となるような文字を妹尾昌俊氏の『「先生が忙しすぎる」をあきらめない』の中で見つけた。6つの言葉(理由)とは、①前からやっていることだから(伝統、前例の重み)、②保護者や生徒の期待があるから(保護者と生徒のプレッシャー)、③子供たちのためになるから(学校にあふれる善意)、④教職員はみんな長時間一生懸命やっているから(集団思考)、⑤できる人は限られているから(人材育成の

当事者意識をいかに高めていくか

豊浦町立豊浦中学校 細 野 輝 彦

負のスパイラル)、⑥結局、わたし(個々の教職員)が頑張ればよいから(個業化を背景とする学習の狭さ)というものである。

学校というところは、行政からの提案や指導をとにかくマイナスに捉える傾向にあるが、学校の長時間労働を改善するためには、一人一人の教職員が当事者意識をいかに高めていくのが重要ではないかと思う。本校には、幸いにも管理職の思いを察して動いてくれる優れたミドルリーダーたちがいる。彼らは、提案力、感化力、包容力がある。学校の教育活動は、増築に増築を重ねて迷路化し、お客も、スタッフも、経営者も迷子になる日本旅館のような部分がある。ミドルリーダーたちにスクラップ&ビルドの視点から、カリキュラムの課題を洗い出させ、それらの解決策を検討させる場(ワーキンググループ)を設けてみたが、実に発想が柔軟で、斬新的なものもあった。今後も検討を重ねることを通して、彼らの発想力や実行力を引き出すとともに、彼らの提案した解決策を学校全体で取り組むことで「6つの言葉(理由)」を払拭し、働き方改革を推進する突破口としていきたい。

前 期 情 報

○道教委との文教施策懇談会及び各課懇談会

今年度の道教委との文教施策懇談会及び各課懇談会が、8月8日に道庁別館及び本庁舎会議室を会場として、道小学校長会、道中学校長会、道公立学校教頭会から69人が出席し開催されました。

前半の全体会では、道小・大石会長と佐藤教育長からの御挨拶の後、道教委に対し、3つのテーマ【協議1】「学力・体力向上と教育環境の条件整備」【協議2】「生徒指導上の問題と解決のための方策」【協議3】「教頭を取り巻く現状と課題解決のための方策」のもと、地区及び教頭会から実情説明や追加質問を行い、協議を進めました。

後半の各課懇談会は3つの分科会に分かれ、道小・道中・道公教から提言と追加質問をし、それぞれに道教委の担当課から回答をいただきながら、意見を交流し懇談を深めました。今年度も“教育懇談会”が継続して開催され、佐藤教育長の御出席をいただく中で、道教委の幹部の方々と道小・道中の各地区理事の方々、道公教の役員が膝を交えた交流ができました。なお、詳細につきましては後日、「道小情報・道中だより号外」にて御報告します。

○地区別教育経営研究会

今年度は、7月31日の宗谷地区を皮切りに、11月6日の空知地区校長会まで順次開催され、内容についても地区の教育課題の交流、講話や講演、グルー

北海道中学校長会 事務局長 和田 正 教

プ協議を取り入れた研修など、充実した教育経営研究会となっています。

○第61回北海道中学校長会研究大会空知・岩見沢大会

9月27日、28日、岩見沢市において北海道中学校長会研究大会空知・岩見沢大会が全道より350余名の会員が参加して開催されました。

大会は、研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」に基づき、「緑と心豊かで彩り鮮やか空知・岩見沢から 新たな時代につなぐ資質・能力を求めて」を大会スローガンに2日間にわたっての充実した研究大会となりました。1日目は川越豊彦全日中会長による教育情勢報告、全日中提案概要説明の後、午後から5つの分科会に分かれ、熱心な研究協議が行われました。今年度も各分科会では小グループによる研究協議が行われ、道教委教育指導監・義務教育指導監、道研企画研修部長から御助言をいただきました。

2日目は、矢野和彦文部科学省審議官による講話と株式会社セコマ代表取締役社長丸谷智保氏による記念講演が行われ、今後の学校経営と、私たち校長の資質向上につながる大きな示唆をいただきました。

主管された空知校長会の皆様には、小学校会員の御協力のもと細やかな運営を進めていただきました。心よりお礼申し上げます。

受賞おめでとうございます

北海道中学校長会の3名の校長先生が、令和元年度北海道教育功績者表彰を受賞されました。

☆塩 崎 弘 明 校長 (江差町立江差中学校)

☆伊 東 義 晃 校長 (旭川市立中央中学校)

☆加 賀 誠 校長 (枝幸町立枝幸中学校)

道中事務局日誌

月 日 曜	業 務	時間	場 所	月 日 曜	業 務	時間	場 所
7. 5 金	中小学校免許状併有のための認定講習検討会議(鎌田)	15:00	道 庁 別 館	9. 4 水	公立高等学校入学者選抜改善の検討に係る懇談会(木村)	14:00	道 庁 別 館
11 木	全日中研礼親大会打合せ(新沼、和田、木村、越田、専任職員)	13:30	道 中 事 務 所	4 5 木	渡島函館地区教育経営研究会(小川)	13:00	七飯町大中山コモン
17 金	第1回北海道学校保健審議会(鎌田)	13:30	か だ る 2・7	13 金	令和元年度「少年の主張」全道大会(立花)	13:00	道民活動センター
19 金	第1回小学校保健総合支援事業連絡協議会(田村)	15:00	か だ る 2・7	20 金	北海道小学校長会教育研究胆振・苫小牧大会(新沼)	9:00	苫小牧市民会館
22 月	第6回小中合同研修会(五役)	9:00	ライフォート札幌	21 火	北海道公立学校教頭会研究大会後志大会(新沼)	10:00	留萌地区教育経営研究会(五十嵐)
24 水	小中合同事務局研修会・学習会・懇談会(五役、幹事、専任職員)	11:00	ライフォート札幌	26 木	第4回副会長研修会(五役、副会長、専任職員)	10:00	苫 前 町 公 民 館
26 金	北海道教育推進会議(新沼)	14:00	第2水産ビル	27 金	第4回理事研修会(五役、副会長、幹事、地区理事、次期副会長候補、専任職員)	13:30	まなみ文化センター
28 土	令和元年度第1回がん教育総合支援事業連絡協議会(立花)	14:00	道 庁 別 館	28 土	第61回北海道中学校長会研究大会 空知・岩見沢大会 第1日目	9:15	まなみ文化センター
31 水	北海道学校給食研究協議会広報編集委員会(山田)	14:00	北海道学校給食会	29 日	北海道ユニセフ協会25周年事業(尾崎)	13:30	札幌文化芸術センターSCATS
3 金	北海道男女平等参画審議会第1回審議会(木村)	10:30	道 庁 別 館	30 月	第61回北海道中学校長会研究大会 空知・岩見沢大会 第2日目	9:00	まなみ文化センター
5 土	北海道高等学校奨励会 令和元年度第1回奨励学生選考委員会(三浦、崇)	13:30	札幌ガーデンパレス	1. 1 火	日弘教北海道文部論文審査会(新沼、和田、三浦英)	14:00	ライフォート札幌
7 月	北海道学校給食研究協議会学校部会総会・研修会(鎌田、山田)	10:30	札幌サンプラザ	3 日	北海道学校給食研究協議会学校部会研修(アメリギー講習会)(山田)	13:30	長野県塩尻市市民会館
9 金	全日中臨時常任理事会(新沼)	13:30	全 日 中 会 館	4 金	北海道立教育研究所運営懇談会(佐藤)	13:30	北海道立教育研究所
11 水	第7回小中合同事務局研修会(五役)	15:00	道 中 事 務 所	5 土	樽山地区教育経営研究会(新沼、三浦英)	9:15	上ノ国文化センター
13 金	宗谷地区教育経営研究会(越田)	9:15	稚内市総合文化センター	6 月	オホーツク地区教育経営研究会(笹川)	13:00	北見市端野公民館
15 土	公立高等学校入学者選抜改善の検討に係る懇談会(和田、木村)	14:00	道 庁 別 館	7 火	第44回全国教育大会愛媛大会(和田)	10:00	松山商船会館
17 月	第1ブロック研修会(新沼)	16:00	ネストホテル	8 火	北海道中学校体育連盟副会長研修会(笹川、山田)	10:00	きたえーる
19 火	日高地区教育経営・法制研究会(木村、田村)	9:30	新冠レ・コード館	9 水	胆振地区教育経営研究会(新沼、山田)	13:00	登別市市民会館
21 水	旭川市地区・中学校 教育経営研究会(鎌田、井村)	10:00	神 楽 公 民 館	10 木	石狩地区教育経営研究会(鎌田、佐藤)	13:30	北見市端野公民館
23 木	上川地区教育経営研究会(新沼、小川)	13:30	上川教育研修センター	11 金	十勝・帯広地区教育経営研究会(山田)	12:50	帯広市市民会館
25 金	小樽市地区教育経営研究会(法本、三浦崇)	13:00	小樽シブラダ生命ビル	12 土	第6回事務局研修会(五役、筆頭副会長、幹事、専任職員)	10:30	ばらと北1条ビル
27 土	空知・岩見沢大会 合同研修会(新沼、和田、木村、伊東、研修者、視察者、司会者、運営委員)	13:00	ばらと北1条ビル	13 金	道中事務局OB会(新沼、鎌田、法本、専任職員)	18:00	ポールスター札幌
29 日	第5ブロック研修会(新沼)	16:00	ANAクラウンプラザホテル	14 土	第66回日本PTA北海道ブロック研究大会(新沼)	18:00	ロイトン札幌
31 月	後志地区教育経営研究会(立花)	13:00	倶知安町ホテル第一会館	15 日	令和元年度「北海道教育会」運営委員会(木村)	14:00	か だ る 2・7
3 火	第3回副会長研修会(五役、副会長、専任職員)	9:30	道 特 会 館	16 金	古間奨学基金創立40周年記念式典(尾崎)	14:00	品川プリンスホテル
5 水	第3回理事研修会(五役、副会長、地区理事、幹事、専任職員)	10:30	道 特 会 館	17 土	令和元年度日本中学校長会研究協議会群馬大会第1日目(五役、副会長、秀島、佐竹、安達、加賀、風間、小澤、海野、佐藤、小川、越田、笹川、山田)	13:30	北海道庁
7 木	文教施策懇談会・各課懇談会(五役、副会長、関係地区理事、幹事)	13:30	道 庁 別 館	18 日	令和元年度日本中学校長会研究協議会群馬大会第2日目(五役、副会長、秀島、佐竹、安達、加賀、風間、小澤、海野、佐藤、小川、越田、笹川、山田)	9:15	道 小 事 務 所
9 金	教育懇談会(五役、副会長、関係地区理事、幹事)	18:15	ライフォート札幌	19 月	第9回小中合同研修会(五役)	10:00	道 中 事 務 所
11 土	第4回北海道公立小・中・特別支援学校校長会管理職研究会大会釧路大会(北野)	18:00	ANAクラウンプラザホテル	20 水	全日中常任理事会(新沼)	11:30	前橋岡工会議所会館
13 日	北海道教育推進会議(新沼)	10:00	第2水産ビル	21 木	全日中理事会(新沼、和田、鹿野内、志道)	14:00	前橋岡工会議所会館
15 月	第8回小中合同研修会(五役)	10:00	道 中 事 務 所	22 金	令和元年度日本中学校長会研究協議会群馬大会第3日目(五役、副会長、秀島、佐竹、安達、加賀、風間、小澤、海野、佐藤、小川、越田、笹川、山田)	9:30	ベアリング文化ホール、前橋パレス
17 火	令和元年度 北海道いじめ問題対策連絡協議会(井村)	10:00	北海道自治労会館	23 土	令和元年度日本中学校長会研究協議会群馬大会第4日目(五役、副会長、秀島、佐竹、安達、加賀、風間、小澤、海野、佐藤、小川、越田、笹川、山田)		ベアリング文化ホール、前橋パレス
19 水	根室地区教育経営研究会(和田、大村)	9:00	本 庁 舎 1 階	24 日	北海道産業教育審議会第2回分科会(木村)	10:30	道 中 事 務 所
21 木	第2回北海道青少年健全育成審議会(田村)	13:30	ばらと北1条ビル	25 月	教育推進研究協議会(山田)	未定	室蘭市広域センタービル
23 金	第2回事務局研修会(五役、筆頭副会長、幹事、専任職員)	10:30	釧路地区教育経営研究会(佐藤)	26 火	公立高等学校入学者選抜改善の検討に係る懇談会(和田、木村)	10:00	道 庁 別 館
25 土	北海道立教育研究所「これからのさだ」小規模校教育充実研修 視察(佐藤)	9:15	道 庁 別 館	27 水	第44回北海道特別支援学校級設置校長協議会	14:00	道 庁 別 館
27 日	令和元年度 第1回教員育成協議会(鎌田)	10:00	道 庁 別 館	28 木	経営研究会オホーツク北見大会(北野)	18:00	道 庁 別 館
29 月	札幌市中学校地区教育経営研究会(和田)	13:00	ライフォート札幌				

発行者 会長 新沼 潔

事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

北海道中学校長会

敷島プラザビル4F

編集者 道 中 情 報 部

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

http://www.dochu-kochokai.jp

本誌の発行にあたっては、作成方法等の見直しにより経費の削減に努めています。